

和歌山大学生協 うえるかむCampus2021



[新学期]

取り組み概要

日時：4月2日（金）10:30-15:50
場所：和歌山大学
参加者数：新入生335名

背景や概要：入学前に新入生が友だちを作ったり、先輩と交流できるような企画を行いました。キャンパス内のウォークラリーや部活紹介、クイズ企画などを行いました。

POINT.1

実感を伝える



うえるきゃんでは、1グループが約6~8名の新入生とGL2名で構成され、アイブレ、キャンパス内のウォークラリー、クイズ企画などを行いました。キャンパスウォークラリーでは、GLが様々な施設の説明を行いながらキャンパス内を巡りました。ウォークラリー中は、GLが、新入生の疑問に答えたり、学校生活の裏技など在校生だからこそわかることを話しており、新入生に在校生の実感を伝えられる機会になっていました。また、お昼休憩では、部活動紹介の動画を流していました。それぞれの部活が短い動画を作成するので、直接の説明でなくても部活の雰囲気が伝わりやすくなっていました。

POINT.2

学生・他団体との協力

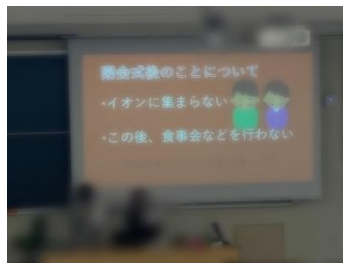
うえるきゃんは生協だけでなく、在校生や他の学生団体などたくさんの人と協力して運営されていました。GLは、部活やサークルに所属する上回生が行うことで、新入生が先輩に様々なことを聞けるようになっていました。また、新入生が上回生と今後つながるきっかけとなっていました。企画の運営では、自治会や大学祭実行委員会といった学生団体などと協力し、一丸となって企画を作り上げていました。例えば、自治会のメンバーが司会を一部務めたり、大学祭実行委員が企画を持つなど、深くかわって企画を作り上げていました。



大学祭実行委員会の企画「夢フォト」
新入生が「夢」を書いてグループで
写真を撮る

POINT.3

感染対策



大規模な企画でしたが、感染対策も徹底されていました。例えば、アルコールスプレーは各グループに1つ設置されており、ウォークラリーの時にもGLが持ち歩くなど、こまめに消毒を行っていました。また、ペンなどを触る前には消毒をするなどのルールも決められており、細かなところまで気を配っていました。

感染対策には、運営側がどれだけ気をつけていても、参加者の意識が低ければ不十分になってしまう可能性があります。うえるきゃんでは、帰りに集まらずに帰ることを促したり、新入生にも感染対策への意識付けを行っていました。また、新入生がまっすぐ家に帰るようにすることを意図して、企画後に集まらなくても十分仲を深めたり、帰宅時間を調節するために、オンライン企画を実施していました。

様々な人・団体との協力

